

アナウンス部門

FMヨコハマ 加藤 直裕 様

もっとできる！というのが正直な印象です。マイクを自分に合う位置にする、息をしっかりと吸う、お腹から声を出す、口を大きく開ける…といった基本的なことを、改めて、徹底して練習してみしてほしいです。

もう一つ、「正しい言葉で正しく伝える」ということも意識して下さい。「正しく伝える」にはアナウンスの技術点の対象になることを全て含みます。自分の言いたいことを聞いてほしい相手に、きちんと届けることができているか？練習の時から、友達に手伝ってもらって、いろいろ指摘してもらうことで、スキルを高めていってほしいと思います。

基本を大事に。ますます精進されることを願ってやみません。

ラジオ日本 内藤 博之 様

今年度は、アナウンス上位から下位までの差があまりひらかなかったように感じました。トータルのアナウンスメントのバランスがまとまりすぎて、より突き抜けた生徒がいなかったのが残念である。学校での練習の仕方においても何が自分のウィークポイントなのか、ストロングポイントなのかをしっかりと認識した上でトレーニングしていくことが大切であると思える。

高校生としてのここまで生きた感性を大切にそれをアナウンスメントに生かせるか、自分だけで満足するアナウンスメントになることなく、聴く人に対して心地よく感動をあたえる事ができるアナウンスメント表現が出来るように努力してほしい。良きアナウンスメントに対する耳を肥やしてほしい。

横浜市立日吉台中学校 村山 恵利 先生

いつも（普段）は中学生の放送、アナウンスや朗読の技術指導に携わっております。

本日は高校生のアナウンスの審査をさせていただき、高校生の表現力の高さに驚きました。地元に着目した題材から取材し、原稿作りに励み伝えていくという取り組みは時間がかかるのだと思いますが、内容に深みが出るのだと感じました。題材の視点がとても良いものだなあと言うものが多数あり、高校生の素晴らしさを実感しました。

私も今日みなさまから学んだことを指導にいかし深みのある原稿作成に力を注いでいきたいと思っています。

朗読部門

日本工学院専門学校 菊地 秀之 様

審査をして感じたのは、本選 24 人がレベルの差がなく、とても上手だということです。魅力的で、個性的で、物語の内容にあった声で読んでいることに感心しました。

その中でも、会話と地の文のバランスがよく、表現豊かな朗読には点を高くつけました。

テンポの変化や声の高低、ポーズを大きくとったり、小さくしたりと内容によって変化をつけることで、聞く人の想像力を刺激する読みは素晴らしいものでした。

今後も自信を持って活動してください。

日本工学院専門学校 熊谷 ニーナ 様

まずは参加した皆さん、特に本選に選ばれた皆さん、お疲れ様でした。みんなマイクの使い方が上手なのに驚きました！

でも声が身体を通して出ている方と、口先で上手く表現しようとしている方と…皆さんは何を目指しますか？

表現（読み方）なんて人それぞれでしょ？本当に心が楽しかったり、悲しかったりできた方が、私は素敵だと思います！「嬉しい」って書いてあっても、心の中の分量がどれくらい嬉しんだろう？まずは心が揺れて、感じて…呟くのか、叫ぶのか？作家さんの思いを読み手（皆さん）を通して表現してみてください。

皆さんはどうしてこの作品を読みたいんだろう？誰に何を伝えたいのか？心が動くってどういうことなのか？難しいけど悩んでチャレンジして楽しんでください！

横浜市立原中学校 熊野 リカ 先生

今年は朗読部門の審査にさせていただきました。

朗読は、本の世界を表現するものですから、表現する楽しさや喜びがありますね。とても楽しそうに朗読している方が多く、やわらかな声がとても聞き心地がよかったです。

ところで、皆さんのなかには、“朗読ってみんなこんな感じの読み方をしてるよ”というようなパターンがあるのでしょうか？内容や言葉にかかわらず、そのパターンに則って語られているように感じる朗読があったことが気になりました。そのパターンにのせることの方が、言葉のイントネーション（アクセント）より優先されてしまえば、正しく言葉が伝わらないと思います。古い作品は言葉自体も聞きなれない古いものがあつたりしがちですから、余計に“音で正しく伝える”ことが重要になるのではないのでしょうか……。

最後に、高校生の皆さん、ぜひ中学生にも多くのことを教えてやってください。

オーディオピクチャー部門

ラジオ日本 滝沢 伸幸 様

今年も熱意溢れる作品を見せていただきありがとうございました。

毎年レベルが上がってる事がはっきりとわかりました。テーマの選び方など本当に上手になりました。審査ですから点数をつけなければなりません、点数から受ける印象ほど各作品に差はなく、大激戦でした。

ここまできると写真、カット割り、BGMの選曲や被せ方、インタビューの音質など、本当に細かい事が評価の分かれ目になってくる可能性もあります。関東や全国に進めばなおさらです。「神は細部に宿る」。作品の設計図をしっかりと作った上で細部に徹底的にこだわる。そんな意識が作品にリアリティーを与えるのかもしれない。今こそ1つ上のステージを目指す時期です。頑張ってください。応援しています。

元ラジオ局アナウンサー 倉林 由男 様

音の世界は面白いです。それに気づいて下さい！取材音と言葉と音楽で伝えたものが聞き手の心にダイレクトに伝わっていきます。それは人々の心に感動を呼ぶことができます！比較的やりやすいことも含めて、その「音の世界の力」に気づいた先輩たちが、歴代いいものを作ってきました。今年は、レベルは高かったです。どんどん上がっています。

これからはもっと、テーマにこだわって下さい。社会的なテーマにもチャレンジして下さい。そして「世の中に何か一言を残したい」そのことにもこだわってみましょう。

横浜市立蒔田中学校 高橋 景子 先生

テーマがバラエティに富んでいてとても楽しく見させていただきました。ありがとうございました。

自分が知らなかったテーマも多く、APの魅力を堪能させて頂くとともに高校生の取材力、技術力、表現力の高さを感じました。

- ・なぜ、そのテーマを選んだのか 動機を明確にする。
- ・テーマを絞り、掘り下げる。

この2点を意識するとさらによい作品になると思います。がんばってください。

ビデオメッセージ部門

テレビ神奈川 遊馬 秀樹 様

今回の作品を審査して、驚いたのは、導入部の巧さです。ハッとするような凝ったシーンから始まったり、音やナレーションに工夫が見られたり、「次どうなるのだろう」と期待させるつくりの作品が多くありました。また、映像の編集技術も高い作品も増えていると感じました。

5分のVTRの場合だと、この作品中で主張したいことは〈ひとこと〉にまとめられます。その主張のために、「どこに取材に行こう」「誰に話を聞こう」「どんなデータを出そう」と吟味してください。その際、あれもこれもとせず、優先順位をつけて思い切った選択を心がけて下さい。強弱がついている作品の方が、見る人に強い印象を与えることができます。

また、導入部と同じ位（あるいは、導入以上に）大切なのが〈締め〉の部分です。締めでは、これまでの主張を代表させるシーンや言葉を選ぶと効果的かと思います。

毎回申し上げているのですが、上達する1番の早道は、〈プロの作品をたくさん見ること〉だと思います。見て、その手法をどんどん真似して、取り入れていってください。

日本工学院専門学校 北川 敬一 様

VMは5分以内だから、早めにタイトルを出してください。そうするとテーマ（何を伝えたいか）が、なにか観る人にとってわかりやすくなると思います。

伝えたい（メッセージ）ことは、言葉では言わないで、映像で伝えることがVM部門です。これからもていねいにつくり続けて、映像好きでいてくださいね。

たくさんの映像に出会えてワクワクしました。ありがとうございました。

綾瀬市立綾瀬中学校 熊本 丈力 先生

久しぶりにビデオメッセージ部門の審査をさせていただきました。どの作品も高校生らしい素晴らしいものが多かったように思います。制作の視点として、まず考えるのは「何を伝えたいのか」テーマは何か、高校生としてどう思うのか、どう感じたのか、どう組み立てるか、制作しながらということもあると思いますが、この何を伝えたいのかをもう一度確認して下さい。

2つ目は「どう伝えるか」を見る人の視点に立って考えること、その上で技術的な確認をして下さい。（SE、BGMのバランス、テロップの色、グラフの文字など）なかなか締切ギリギリで作っていて余裕はないと思いますが、ぜひ作品を出す前に部員同士でチェックして下さい。いつか、また素晴らしい作品を見られることを楽しみにしています。

情報部門

教育委員会指導主事 橋本 雅史 様

今回の大会に向けて、皆さんが考え、準備された発表を大変楽しく拝見していました。

スライドのアニメーションや、発表の形式など、様々な工夫を採り入れた発表であると同時に、内容についても多岐にわたっており、準備の苦勞が伺えました。今後に向け、自身の発表をより豊かなものにしていくためにも、何点かアドバイスをさせていただきます。

- ・発表について、目の前の人たちに自分の考えを伝える、という視点から、原稿に目を落としながらも、最小限に留め、相手に向かって話す、などの工夫があるとより良くなると思います。
- ・発表資料中のデータは、自分の考えを伝えるために十分な根拠となり得るか、ストーリーを考えながら、もう一度考えてみましょう。データの背景や、補足事項などがないと、うまく説明できないことでも、用意した側は、意外に見落としてしまいます。

以上のことを踏まえ、発表の練習の段階から、顧問の先生や友人たちにアドバイスをもらいながら、より良い発表を目ざし、頑張ってください。